

— 広 告 —

KIT
キャンパス
レポート ⑧
文・杉村裕之

データサイエンスを活用し 大都市の若者を地方へ還流

皆川 青輝（みながわてき）
金沢工業大学大学院工学研究科
情報工学専攻
博士前期課程一年
新潟市立万代高等学校出身



データサイエンスを活用して、学生が社会的な課題解決のアクションプランを考える「Viz Rookies（ビズルーキーズ2026）」で、KITチームは予選上位三組の決勝大会に進んだ。日本初開催であり、今回のテーマは「若層の地域定住」。皆川さんは、各種データの分析と評価、データ可視化ツールを使って作るアクションプランのタッシ

の育成をリンクさせた独創性が審査員の高い評価を受けた。

「データ分析から新しい価値を生み出す発想力、それを伝えるストーリーテリングの重要性を学ぶ貴重な経験ができました」。こう振り返る皆川さんは、現在、KITが蓄積する修学ビッグデータから教育の質を明らかにする研究に挑む。今年九月の教育システム情報学会では、学生の課外活動と就職先の関係を解析した卒業研究の成果を発表した。課外活動で育まれるリーダーシップやコミュニケーション能力が、企業側が採否を判断する大切なポイントとの推論を裏づけた。

皆川さんがデータサイエンスに目覚めたのは、夢考房プロジェクト「Data Dreamers」に参加した二年次の初冬である。同プロジェクトを創設、牽引した三年先輩の増田圭亮さんと出会い、「ギバーの精神とひるまず苦難に立ち向かう姿

に憧れました」。以後、データ分析コンペへの参加を重ねてスキルを磨き、今は後輩の技術指導とコンペのサポート役を担う。

将来、データサイエンティストやデータアナリストとして、社会から頼られる存在になるための研鑽も怠りない。産学協同で行うKITコオプ教育やインターンシップに何度も参加し、ビジネスの生きた現場で実践力を鍛える。

てつきり東京へ出るのかと思ったら、ふるさとがいいという。フルリモート勤務も珍しくない時代だから、地元で国内外の仕事をこなすことも難しくはないだろう。

それ以上に彼に期待したいのは、若者を地方へ還流させるプランの実現である。新潟がモデルとなり成功事例が全国へ広がれば、東京一極集中にやっとな風穴が開く。

金沢工業大学

石川県野々市市扇が丘七ー
電話番号（〇七六）二四八二〇〇